

特集

食べることは生きること

食と健康には知らないことがたくさんある。いま「食」について考える

三重県のNPO・市民活動情報誌

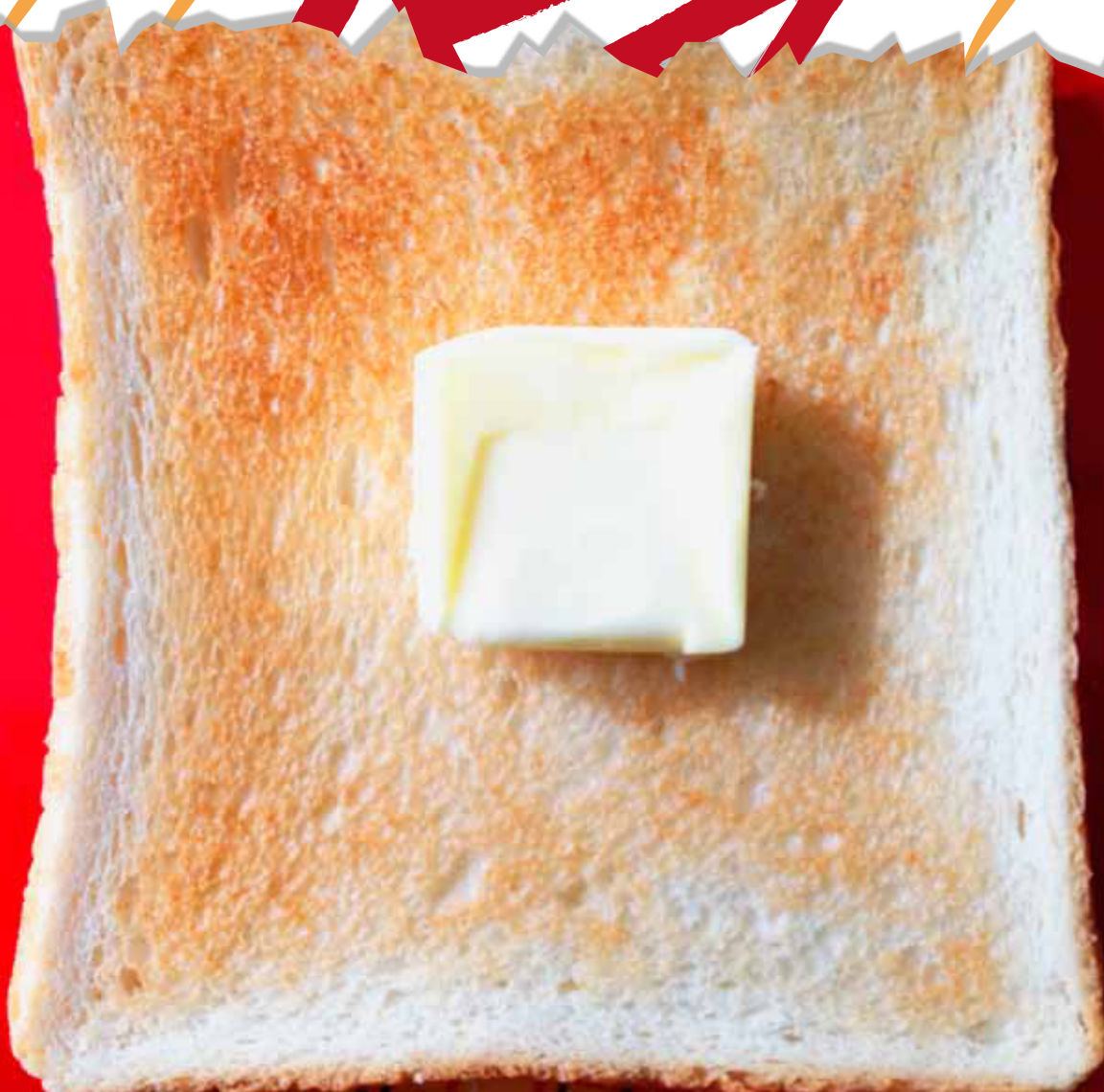


2015

2

2015年1月25日発行
通巻194号

食

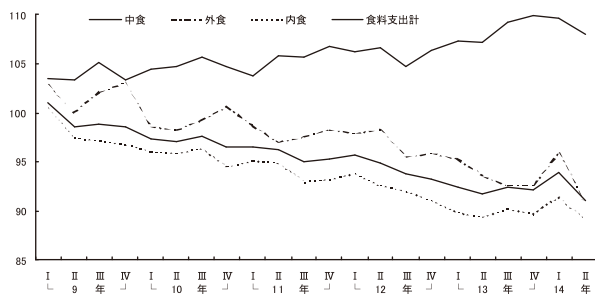


現代日本人の死亡原因の約 6 割は生活習慣病に起因しており、関連する医療費は全体の約 3 分の 1 を占めている。生活習慣病は中高年の病気というイメージが強いが、近年では生活習慣病にかかる若者が増加している。生活習慣病にかかる若者の増加は、国民全体の医療費負担が増えるだけでなく、健康な働き手が少なくなることで人口減少とも相まって日本の生産力、経済力を大きく衰退させていくことにもなりかねない。今回は、そのような未来を少しでも緩和するために「食生活」という切り口で何ができるのかを考えてみた。

「正しい食生活が健康をつくる」

子どもはもちろん、大人が食について学んでいく。そうして正しい知識を身につけ、安全な食の選択を行うことで、豊かな食生活を実現していくことができるかもしれない。

現代は「飽食の時代」といわれ、誰もが簡単に、便利に、そして安価に食事をとることができるようになった。特に、核家族化、ライフスタイルの多様化、夫婦共働き、少子高齢化などの背景から、食事をつくる時間が取りづらい人たちに「中食^{なかしよく*}」という食生活のスタイルが受け入れられている。過去の推移をみても、減少傾向である外食や内食に比べ中食は増加傾向にある。(図 1)



(注) 1. 中食は、弁当類、惣菜類といった調理食品支出を指す。内食は食料費から外食及び中食を除いたもので、具体的には穀類、魚介類、肉類などの食材支出を指す。
2. 食料費支出は、消費者物価指数により実質化を行い、X-12-ARIMA の X-11 デフォルトにより独自に季節調整を行った後、指数化 (7 年=100) している。

資料:「家計調査報告」「消費者物価指数」(総務省)

図 1 家計の実質食料費支出の動向

* 市販の惣菜や弁当など家庭外で調理・加工済みの食品を購入して家庭や職場等で食事をするスタイル。

個人の嗜好で食べたいものを自由に選択できる環境、夫婦共働きや残業等で時間が作れず中食や外食を利用する環境などから、塩分や脂質の過剰摂取、野菜摂取不足、孤食等の問題が生じている。かつては、食事の機会に、親や家族が子どもに食事のマナーや社会常識を伝えることで、食への知識やコミュニケーション力が養われていた。しかし、一家団欒^{だんらん}でいっ

しょに食べる機会が少なくなった子どもたちにとっては、心身ともに成長する場が減っているとも言える。中食を利用する場合、週に 1～2 回程度とし家庭で料理したものもプラスする、味付けを薄味に調えるなど工夫して上手に活用すると良い。

また、朝食欠食は生活習慣病の原因となり、健康の維持や増進、日常生活に大きく影響する。子ども達の場合は集中力が低下し、それが学力に影響を及ぼす。さらに、人間の身体は、欠食するとエネルギーを蓄えようとするため、脂肪の蓄積能力が高まり太りやすい体質をつくることになる。空腹時間が長くなると中枢神経が刺激され、食欲が増し早食いや過食に走り、1 回の食事量が増えることでインスリンの分泌が活発になる。こうして、肝臓での脂肪合成が進み、肥満になりやすくなってしまうのだ。たった数日の食事が健康に大きな影響を及ぼすとは考えにくいですが、それが習慣化することが危険なのである。

先にも述べた「中食」の利用についても、低年齢から習慣化すると、健康とともに「選食能力」を損なう心配がある。できあがったものを食べることに慣れ、調理方法や食材が見えないまま口に入ること、食材を選び「料理をする」という習慣が薄れていってしまうのだ。レトルト食品や合わせ調味料を使い調理をすることは「料理」だと認識する家庭も少なくないだろう。そして、「おふくろの味」といった概念がなくなり、代々伝わる家庭の味や地域の伝統料理が継承できなくなることも杞憂^{きゆう}ではない。このような弊害を減らすひとつの方法として、「三里四方の食によれば病知らず」という言葉があるように、地域の食材や料理法を理解することから始めてはどうだろうか。

食の安全・安心のための取り組み

食の大切さを普及するため、活動を行う人々がいる。津市子育て子育て支援システム地域運営協議会は、津市および企業・団体・行政機関・学識経験者等の産官学が連携した協議会で、インターネットを用いて子育て子育て情報の交換や情報収集できる環境づくりを行ってきた（平成 27 年 3 月終了）。食育に関する情報発信も行っており、来年度からここで活動していた食育サポーター「すきっこクラブ」は、子どもに寄り添い食に対する基礎知識・料理の基本を伝え、保護者の方々の理解のもとに子育てを支援する活動を展開していくという。食生活改善推進協議会（通称：ヘルスメイト）は食を通じた健康づくりのボランティアとして、全国で 16 万人、三重県内では約 2800 人が活動している。全国で「私たちの健康は、私たちの手で」という共通スローガンをもち、地域の健康づくりの担い手として、生活習慣病の 1 次予防になる食生活改善活動の普及に努めている。地域住民自らが食生活を改善していこうと考え行動し、「自分自身の健康」から「家族」そして「お隣さん、お向かいさん」へ健康づくりを伝えていくということを原点に、より良い食習慣が根付いていくよう働きかけている。この草の根運動が広がることで、食生活改善のための地区組織活動となり、お互いの交流を深め問題解決に向かって協力し合うことができるのだろう。

また、食品表示の問題は世間で注目を集めており、産地偽装やメニュー表示事件など記憶に新しい。三重県は、これらの問題を受け「三重県食の安全・安心の確保に関する条例・三重県食の安全・安心確保基本方針」を改正し事業者へより高い食の安全・安心を提供するよう促し、その監視・指導を行っている。食品表示は、アレルギーや保存方法など身体に直接影響を及ぼす情報に加え、消費者の商品選択に役立つ情報を提供する。三重県は、県民が食品表示に関する知識や理解を深めることや事業者が食品表示を適正に行うことを目的に、平成 15 年から平成 24 年に「食品表示ウォッチャー制度」を設け、のべ 733 名のボランティアが協力している。消費者は、食品安全委員会の HP やメールマガジン、三重県の出前トークを利用し食品表示に関する有益な情報を得ることができる。

平成 25 年 6 月、食品表示法が公布された。新法

は現行の食品衛生法、JAS 法、健康増進法それぞれに規定されている食品表示に関わる 58 の基準を 1 つに統合しており、これまで任意表示とされていた栄養成分表示の義務化などが含まれている。複数の法律にまたがっていた表示基準や用語が整理され、事業者は判断基準が明確になり、消費者は見極めやすくなる。

豊かな食生活を目指して

食べることの「安全と安心」を真ん中に置いて考えれば、自ずと行動が変わってくる。けれども、それを優先できない現実がある。さまざまな事情から、「食べるもののリスク」に目をつぶらないと暮らしていけない現実がある。調理の時間がないのは遊び暮らしているからではないし、安全安心な食材を使うにはそれなりの費用がかかる。いっしょに食事ができないのは、いっしょに食べたくないからではない。

「食」をとおして見えてくるのは、私たちの日常の異常さかもしれない。みんなせいっぱいがんばっているのに、この異常な生活習慣からののがれられないのはなぜだろう。せめて、この課題に取り組んでいる、身近な市民活動団体が発している「警鐘」に耳を傾け、自らの暮らしに少しでも「正しく食べる」情報・知識を増やしてもらうことを願っている。食の問題に取り組む身近な市民活動団体・NPO を知り食への関心を高めていくことは未来の健康生活にも繋がっていくだろう。

（大槻）

＜取材・資料提供のご協力（順不同）＞

- ・三重県健康福祉部 食品安全課食品表示班 様
- ・三重県農林水産部 農産物安全課 様
- ・津市立三重短期大学 生活科学科 助教 管理栄養士 飯田津喜美 様
- ・津市食生活改善推進協議会 様





「三重ぐるり」のコーナーでは、毎月テーマを1つ設け、そのテーマに沿った三重県内の市民活動団体を紹介しています。今月のテーマは【食の安全・安心、健康、アレルギー】。課題解決のためにさまざまな活動が行われています。食生活や健康について取り組んでいる団体の活動を県内各地の市民活動（支援）センターを通して集めました。

みずほのおかげ市場

情報提供：みえきた市民活動センター



イベントスペースもある、市場の中の様子です。

ひと言 PR!

プロがつくったこだわりの野菜や有機栽培米など、体に良い食べ物を届ける市場です。コミュニケーションを大切にしています。おいでの折には、ぜひお声をかけてください。作物のいろいろなお話しをお伝えします。

いなべ市員弁町北金井吉備川 2500 番
☎ 0594-37-0206
✉ mizuhonookage@hotmail.co.jp

アレルギーっ子の会ぽかぽか

情報提供：津市市民活動センター



子どもたちの交流の場、クリスマス会

ひと言 PR!

食物アレルギーの心配をせずに「みんなで一緒にのものをわいわいと食べる」ことを楽しめるよう、クリスマス会、バーベキュー会などの交流会を開催しています。交流会は、会って話すことができる機会としても重要です。

「アレルギー疾患に直面する子どもとその家族に対する社会の理解を深めること」を大きなテーマとして活動しています。社会の情報化に伴い、アレルギーに関する情報を得やすくなったことで、会員数はこの2年程で減少傾向にありますが、一方で、会って話すことができる当会の存在が重要であることには変わりありません。実際に会って話せば、アレルギーについての話は尽きず、しみりせずに笑ってしまいがち、辛くもある経験を互いに話せる場となっているからです。子どもたちにとっても、互いの状態について話し、情報交換のできる場となっています。また、災害時におけるアレルギーを持つ子どもへの対応について伝える活動を、津市の防災大学などで行っています。食物アレルギーによって炊き出しや備蓄食料を食べることができないという状況が起こり得ますが、炊き出しについてはアレルギーの原因となる食料を加える前に取り分け、備蓄食料については食べられるものを選択することができれば、「食べられない」状況を回避することができるのです。

あおむしの会

情報提供：松阪市市民活動センター



料理教室の様子

ひと言 PR!

子どもの未来を考えると、社会で起きていることに無関心ではいられません。知識を持ったうえで判断できる“賢い母”になり、また母ならではの視点で周りの意識を少しずつ変えていきたいと、できることから取り組んでいます。

2012年より、子育て世代の母親が集まり、子育てに役立つ食や暮らしの知識を得るための勉強会やイベントを開催してきました。活動をはじめたきっかけは、東日本大震災でした。当時、大津波、福島原発事故など2次災害、3次災害まで被害が及び、特に放射能が及ぼす影響についてはさまざまな情報が溢れました。そのとき、「子どもの健康を守るためにちゃんと知識を得たい」と有志の母親らが集まり、自主的に原発や放射能の知識を学ぶ勉強会を始めたのがスタートです。その後、子どもと母親自身が一緒に楽しみながら、身体や心が元気になれることを大切に、料理教室、音楽イベント、親子整体教室などを企画・運営してきました。料理教室では、飲食業に携わるメンバーが先生を務め、安心・安全な調味料や食材の選び方を伝えながら、一緒に料理することで母親同士の交流を深めてきました。

☎ 090-1417-2351 (代表・前田さん)

クローズアップ

ー協創のヒント集ー

県民が力を合わせることによって、地域社会で「今までできなかったことができるようになる」ために大切なヒントを毎月ご紹介します。

ヒント19

協創の「つなぎ役」が的確な役割を果たす

新しい公共においては、多様な主体の協働が重要な役割を持ちますが、「つなぎ役」については、これまであまり明確に位置付けられてきませんでした。しかし、これまでは行政とNPOとの協働が中心でしたが、これからはボランティア、地縁団体、NPO、企業、行政など、多様な主体の相互連携が求められています。協働は自動的に成立するものではないため、つなぎ役の機能が今後重要であることは言うまでもありません。

つなぎ役としては、地縁組織の中間支援団体（自治会連合会など）、NPOの中間支援団体、市民活動センター、社会福祉協議会などが考えられます。また地域コミュニティにおいては、地域コミュニティ組織のマネージャー的存在の役割も重要です。さらに、行政もつなぎ役としての役割が期待されます。

このようなつなぎ役が相互に連携すること、つなぎ役の担い手を育てること、つなぎ役がその役割を果たすための財政的支援が、今後の重要な取組となります。

引用：『夢をかたちにするまちづくり～「新しい公共」のヒント集～』（三重県・新しい公共円卓会議／2013年3月発行）

事例

- 1 地縁団体とNPOがつながる
「まちづくり協働委員会」（四日市市）
実施主体 四日市市（行政）
- 2 地域コミュニティの中のつなぎ役
「地域マネージャー」（四日市市）
実施主体 四日市市（行政）
- 3 事務局が変わるとイベントも変わる
「尾鷲イタダキ市」（尾鷲市）
実施主体 東紀州コミュニティデザイン（NPO）
- 4 NPOがインターンシップのつなぎ役
「三重チャレ インターンシップ」（津市）
実施主体 特定非営利活動法人 a trio（NPO）

活動のぞき見隊 Vol.18

文化面で津をにぎやかに

津市のボランティアグループ「あのつ画廊」は津観音に近い中心市街地と呼ばれるところがありながら、衰退していく大門商店街に再び人を呼び込んでにぎわいを取り戻そうと、ボランティアで文化事業に取り組んでいます。

当初は画廊事業が主でしたが、その後、お年寄りのたまり場や秘密基地をつくれば良いと考え、津ゆかりの懐かしいものの展示や、定期的に音楽・絵画などの文化イベントを展開されています。

「あのつプラザ」



津市在住のアマチュア作家による手づくり作品の展示・販売を行い、その一角では休憩所としてコーヒーなど飲み物のセルフサービス（一杯100円）も行っており、ゆったり過ごすことができます。

「あのつギャラリー」



伊勢津藩の城主であった藤堂高虎公の偉業や、昭和の津の町並を写した写真や資料の常設、昭和レコード館も併設されています。

「あのつホール」



多目的ホールとして活用され、毎月第4土曜日は、さまざまなレコードを共に楽しむ「あのつ画廊レコードコンサート」を開催。歌謡曲、ジャズ、クラシックなど多様な音色を楽しむことができます。2月26日（木）、3月30日（月）には、混声合唱団「うたおに」によるマンスリー・コンサートを開催予定。

記者の雑感 記者 富田

伊藤守夫代表は元県職員で、在職中は写真や映像で三重県の良さを全国に発信する広報担当として、「県政だより」の創刊、俳句募集などにも携わってこられました。これまでの経験を活かし、次々と新しい発想で企画を展開。今後も津にこだわった自主企画を展開していきたいというアイディアマンでもあります。取材中、若い人たちが昭和の町並写真を見ている姿に、お年寄りだけでなく若い人たちの交流の場になれば今後の展開が楽しみな空間でした。

「市民活動・NPO 月間 2014」が終了しました



1人でも多くの方に市民活動やNPOについて知っていただき、触れていただく機会をつくることを目的に11月から開催していた「市民活動・NPO 月間 2014」が、12月末を持ちまして無事終了いたしました。

2年目となった今年は、昨年より多くの機関にご協力いただき三重県全域にのぼりを掲げ、“地域の未来のためにわたしたちができること”をテーマに、三重県の各地域でさまざまな催しを行いました。ボランティアや市民活動を行っている方たちのつどいや、一般の方も気軽に参加できるチャリティコンサート、フリーマーケットやカフェなどが開催されました。また昨年度同様、市民活動・NPO 周知の一環としてポケットティッシュの配布も行いました。ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

「コーヒー寄付金」の寄贈団体が決定しました



12月19日に開催した「協創シンポジウム」にて、コーヒー寄付金の贈呈式を行いました。応募のあった38団体の中から事前の選考会により決定した9団体に総額50万円を贈呈しました。応募していただいたどの活動もすばらしく審査は大変難航しましたが、用途の明確さ、地域のニーズ、先駆性、将来性などを考慮し選考いたしました。

贈呈された団体は次の通りです。

NPO 法人生ごみりサイクル思考の会／NPO 法人四日市まんなかこどもステーション／
ウミガメネットワーク／三重要約筆記サークル津あみ〜ご／NPO 法人どんぐりの会／
いのちを守る森の防潮堤応援団みえ／子育て応援プロジェクト☆パイン／
NPO 法人南勢こどもの発達支援センターえがお／シロウトリノベ（順不同）
みなさま、ご応募ありがとうございました。

「世界を楽しもう!～ Hand in Hand! みえの地球市民 2014～」を開催しました



12月7日(日)に、アスト津3階にて、多文化理解イベント「世界を楽しもう!～ Hand in Hand! みえの地球市民 2014」を開催しました!

今年度は新たな取り組みとして、小学生から中学生の子どもたちを対象とした4つのプログラムを設けま



した。各プログラムの中で多文化理解についてさまざまなことに触れてもらい、楽しく学んでいただけたことと思います。世界のクイズ大会も盛り上がり、初代クイズ王も誕生しました!

「三重県内中間支援組織機能調査研究報告会」を開催しました

12月19日(金)に、昨年度から行っておりまして三重県内の中間支援組織および市民活動(支援)センターを対象にした調査の報告会を行いました。「NPO支援」という共通の目的、想いを持った組織・センターの現状分析、そこから見える課題や将来像をご参加いただいたみなさまとお話しました。県外から参加された方も多く、非常に注目度の高い報告会となりました。

「協創シンポジウム」を開催しました



社会構造の変化の中で経済や企業や個人の生き方はどう変化するのか、その変化に市民活動はどう関わっていくのかという視点に着目し、12月19日にアスト津4階で「協創シンポジウム」と題し、内閣府少子化危機突破タスクフォース政策推進チームリー



ダーの渥美 由喜さんをお迎えして講演会を、井村屋グループの岩上 真人さん、NPO 法人三重すまい・くらし相談室の川北 睦子さんをお迎えしてトークセッションを行いました。

「施設利用者アンケート結果」を公表しました

みえ市民活動ボランティアセンター運営の改善・向上の参考にさせていただくため、施設利用者アンケートを実施、結果を公表しました。貴重なご意見、ご要望をもとにより良いセンターを目指し、精進して参りたいと思います。ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。なお、アンケート結果はセンターホームページ、センター内にて閲覧ができます。

みえぎんNPOローン

好評取扱中

委託金、助成金等の受け取りまでの「つなぎ資金」として最高1,000万円まで無担保でご融資!

対象:三重銀行の三重県下営業エリア内に主たる事務所を有するNPO法人

※ただし、当行所定の審査の結果、ご希望に添えないことがあります。

“地域とともに みなさまとともに”

詳しくはTEL059-354-7130(審査部)まで
URL: <http://www.miebank.co.jp>



三重銀行

三重県の新名物

伊勢おやき本舗

年齢、国籍、性別、障害の有無にかかわらず
ともに働き、ともに成長する「ユニバーサル就労」の店



イベント出店、ご当地おやきの開発など、各種御相談に応じます。

四日市市諏訪栄町 3-4 TEL/FAX 059-355-5115 ssk21www@yahoo.co.jp

助成金情報

助成金情報はみえ市民活動ボランティアセンターホームページでも多数ご紹介しております

① 締め切り・募集期間 ② 対象 ③ 助成金額／表彰内容

杉浦地域医療振興財団 第4回助成

- ① 2月28日(土) 必着
② 保健・医療・福祉・介護従事者等の他、行政、企業等または NPO、ボランティア等が実践、又はこれから実践しようとする「地域医療連携」活動 ③ 1件の上限 300万円(総額 2,000万円)

全日本冠婚葬祭互助協会 第16回社会貢献基金助成

- ① 2月28日(土) 必着
② 研究助成…テーマ:「婚礼、葬儀など儀式文化の調査研究」、高齢者・障害者・児童福祉事業、環境・文化財保全事業、国際協力・交流事業を行う非営利組織(法人格の有無不問) ③ 1件の上限 200万円、研究助成の場合は 100万円(総額 1,000万円)

CO・OP共済「地域ささえあい助成」

- ① 3月15日(日) 当日消印有効
② 生協と NPO やその他団体が協同して行う「くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する」活動、「命を守り、その人らしい生き方ができるようにする」活動、「女性と子どもが生き生きする」活動 ③ 1件の上限 100万円(総額 2,500万円)

連合・愛のキャンパ「地域助成」

- ① 3月31日(火) 当日消印有効
② 地方連合会が日常的な活動で連携している NPO 等の団体が行う、大規模災害などの救援・支援活動、人権救済活動、地球環境保全活動等 ③ 総事業額と助成希望額を申請

連合・愛のキャンパ「中央助成」

- ① 3月31日(火) 当日消印有効
② 海外や国内で救援・支援活動に取り組んでいる NGO・NPO 団体等が行う、大規模災害などの救援・支援活動、人権救済活動、地球環境保全活動等 ③ 総事業額と助成希望額を申請

砂防ボランティア基金 平成27年度助成

- ① 3月31日(火)
② 砂防ボランティア団体等が、土砂災害被災地域において実施するボランティア活動、砂防行政への支援活動、地域に根ざした防災活動等 ③ 助成希望額を申請

スタッフレーム

はじめまして、9月よりみえ市民活動ボランティアセンタースタッフになりました橋丸です。よろしくお願いいたします。さて、今月号のテーマは「食の安全・安心、健康、アレルギー」です。「食を食べる」は生きていくためには必要不可欠な行為です。しかし、身近にあふれる食品の中には食品添加物や人工甘味料、トランス脂肪酸など危険な要素もたくさん含まれています。完璧に安全な食生活を手に入れることは難しいですが地産地消を意識したり、下ごしらえの際にひと手間を加えたりすることでリスクを減らす事は可能です。

また、日本の食文化は2013年にユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」をはじめとして、正月や祭などの年中行事と密接にかかわって育まれてきたかけがえのないものです。慌ただしい毎日の中で疎かになってしまいがちですが、手間をかけた自然の恵みを分けあうことで季節を感じ家族や地域の絆を深める「食を食べる」をこれからも大切にしていかなければと思います。(橋丸)

法人認証の記事

(2014年12月10日～2015年1月9日認証分)

今月号の法人認証数は0件です。
1月9日時点の三重県のNPO法人数は687
認定NPO法人数は4件です。



転載を希望の場合は必ず「みえ県民交流センター指定管理者:みえ NPO ネットワークセンター」に連絡してください。



はこちらにあります。

【地域の市民活動センター等】〈津市〉みえ市民活動ボランティアセンター/津市市民活動センター/三重大学/看護大学/三重短期大学/高田短期大学 〈桑名市〉桑名市市民活動センター 〈いなべ市〉いなべ市市民活動センター 〈東員町〉とういんボランティア市民活動支援センター 〈四日市市〉四日市市なやプラザ/四日市大学 〈亀山市〉亀山市市民協働センター 〈鈴鹿市〉市民ネットワークすずかのぶどう/鈴鹿国際大学/鈴鹿医療科学大学 〈松阪市〉松阪市市民活動センター 〈伊勢市〉いせ市民活動センター/皇学館大学 〈志摩市〉阿児アリーナ/横山ビジターセンター 〈名張市〉名張市市民活動支援センター/エコリゾート赤目の森/名張市立図書館/名張青年会議所/名張市総合福祉センター 〈伊賀市〉伊賀市市民活動支援センター/伊賀市立図書館/伊賀青年会議所 〈尾鷲市〉東紀州コミュニティデザイン 〈明和町〉めいわ市民活動サポートセンター 〈南伊勢町〉南伊勢町町民文化会館 〈紀宝町〉紀宝町ボランティア市民活動センター

【地域の社会福祉協議会】県内の市町社会福祉協議会

【金融機関・企業等】百五銀行各店/第三銀行各店/三重銀行各店/東海労働金庫各店/県下JA/バンク各店/メディカル光各調剤薬局

【行政機関等】三重県庁県民ホール/三重県地域機関(地域防災総合事務所(桑名、四日市、鈴鹿、津、松阪、伊賀) 地域活性化局(南勢志摩、紀北、紀南))/三重県米町庁舎(情報公開窓口)/三重県総合医療センター/三重県立一志病院/三重県立志摩病院/三重県立こころの医療センター/三重県立こころの健康センター/斎宮歴史博物館/三重県立博物館/三重県立図書館/三重県生涯学習センター/三重県男女共同参画センター「フレンドみえ」/三重県人権センター/三重県身体障害者総合福祉センター/三重県環境学習情報センター/三重県立熊野古道センター/各市町役場/各市町中央公民館など

協賛

みえ市民活動・ボランティアニュース発行にあたり、協賛をいただいております。

キラリと光るあなたの銀行
第三銀行

三重銀行

百五銀行
FRONTIER BANKING

健康・安心・貢献
東海ろうきん

JAバンク
三重県下JA/JA三重信連

株式会社
阪本事務機



環境にやさしい植物油インキを使用しています。